

**JASDAQ**

平成30年5月14日

各 位

会社名 内外テック株式会社  
代表者名 代表取締役社長 岩井田 克郎  
(JASDAQ・コード3374)  
問合せ先 取締役 佐々木 政彦  
電 話 03-5433-1123 (代表)

## 業績予想値と決算値との差異に関するお知らせ

平成29年8月10日に公表いたしました平成30年3月期(平成29年4月1日～平成30年3月31日)の通期業績予想値(連結)と、本日公表の平成30年3月期決算の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想値と決算値との差異

平成30年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成29年8月10日発表)	百万円 25,730	百万円 1,143	百万円 1,130	百万円 763	円 銭 281.49
今回実績(B)	28,426	1,202	1,184	857	316.31
増減額(B-A)	2,696	59	54	94	—
増減率(%)	10.5	5.2	4.9	12.4	—
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	20,918	874	849	626	257.83

(注) 前回発表予想(A)の1株当たり当期純利益は、平成29年9月に実施した新株式発行を考慮して計算した金額を記載しております。

#### 2. 差異の理由

半導体市場、半導体製造装置市場では、それぞれの世界市場が2017年(暦年)の統計において過去最高を更新するなど、好調に推移しました。IoT市場の拡大を背景に、モバイル機器、車載機器を始め様々なデバイス向けに半導体需要が増加する一方、データ通信の大容量化、高速化を支えるデータセンター向けサーバーなどインフラ向けにも半導体需要が大きく伸長しました。半導体市場の主要カテゴリーすべてにおいて成長が見られましたが、とりわけメモリ市場では3D NAND、DRAMを中心に需要が急速に拡大したことによる供給不足、価格上昇が発生し、半導体メーカーによるメモリの生産力拡大に向けた設備投資が活発に行われました。また、ロジック半導体などの先端技術への積極的な開発投資も継続したことにより、半導体製造装置メーカーの受注は好調に推移しました。

FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置市場では、前年度から引き続き中国、韓国を中心に、テレビ用の大型液晶パネル向けの設備投資が拡大する一方で、モバイル機器、車載機器向けの中小型パネル向けの設備投資も堅調に推移したことから、FPD製造装置メーカーの受注は、堅調に推移しました。

この結果、主要取引先である半導体製造装置メーカーからの受注が通年にわたり好調に推移したことから、「売上高」、「営業利益」、「経常利益」および「親会社株主に帰属する当期純利益」の実績値は予想値を上回りました。

以 上